

第4節 インターネットの利用状況

インターネットの利用とは、Web ページの閲覧だけでなく、電子メールの送受信も含めるので、電子メールを使った今回のアンケートでは 100%の回答者がインターネットを利用していることになる。従って、本節の回答者数は有効回答者全員の 99 人である。

1. インターネット音声化ソフト

画面を視覚的に読むことのできない視覚障害者が Web ページを閲覧するには、インターネット音声化ソフトまたはスクリーンリーダーが利用される。最も多く利用されているインターネット音声化ソフトはホームページ・リーダー（55 人）、スクリーンリーダーは PC-Talker（29 人）であった（表 3-4-1）。

表 3-4-1 利用されているインターネット音声化ソフト（n=99。複数回答）

音声化ソフトの種類	製品	利用者数
インターネット音声化ソフト	ホームページ・リーダー	55
	VE2000	16
	ボイスサーフィン	8
スクリーンリーダー	PC-Talker	29
	95Reader	19
	VDM100W-PC-Talker	15
	JAWS	3
	outSPOKEN	2

2. インターネットの利用目的

インターネットの利用目的としては、ほとんどの回答者が、電子メールの送受信（98 人）と情報の検索と入手（95 人）を挙げた（表 3-4-2）。電子商取引を利用している回答者は 45 人であった。以上は、選択肢を設けた項目である。その他の回答のうち、具体的に上げられた内容は、ソフトウェアのダウンロード（4 人）、ホームページ作成（4 人）、メーリングリストでの情報発信（2 人）などであった。

インターネットを情報検索に利用している回答者 95 人に、情報検索の種類と目的を尋ねたところ、生活実用上の情報（84 人）、ニュース等の閲覧（76 人）、趣味等の情報（75 人）、行政や公的団体のページの閲覧（61 人）、仕事上の情報（56 人）という回答であった（表 3-4-3）。

インターネットを電子商取引に利用している回答者 47 人に尋ねた具体的内容は、ショッピング（36 人）、各種予約や申込サービス（27 人）、バンキング（株の売買も含む）（18 人）などであった（表 3-4-4）。

インターネット利用時の問題で最も多かったのは、Web ページやファイルを音声化できないことで 83 人の回答者があった（表 3-4-5）。インターネットへの接続や設定が自分 1 人でできないという問題への回答者も多く（47 人）、そのとき援助を頼むのは、友人・知人（17 人）、家族（14 人）、業者（8 人）、ボランティア（4 人）、職場の同僚（3 人）、その他（4 人）であった。

表 3-4-2 インターネットの利用目的 (n=99。複数回答)

利用目的	回答者数
電子メールの送受信	98
情報の検索と入手	95
電子商取引関連	45
チャット, 掲示板, 電子会議室の利用	25
その他	16

表 3-4-3 情報検索の種類と目的 (n=95。複数回答)

種類と目的	回答者数
生活実用上の情報検索と入手	84
ニュース等の提供ページの閲覧	76
趣味等の情報検索と入手	75
行政や公的団体のページの閲覧	61
仕事上の情報検索と入手	56
上記以外の情報提供ページの閲覧	20

表 3-4-4 電子商取引の種類 (n=47。複数回答)

種類	回答者数
ショッピング	36
各種予約や申込サービス	27
バンキング (株の売買も含む)	18
オークションへの参加	7
営業	1

表 3-4-5 インターネット利用時の問題 (n=99。複数回答)

種類	回答者数
音声化されない Web ページやファイル	83
フォームへの書き込みができない	50
ネットへの接続や設定ができない	47
ダウンロードができない	46
その他	19